



# モエコ★カムイ

NO.

# 62

●モエコ・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

FEB 2002

あさひやまどうぶつえんニュース  
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」

その23 今年の干支です

ウマ 2・3

ヒーリングアニマル

4・5

飼育研究レポート

6

動物園事情

こども牧場だより

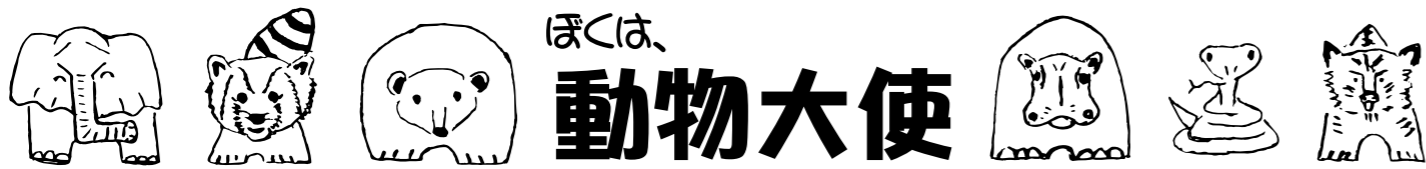
7

クイズ  
できごと  
飼育動物数  
編集後記

8

ウマ

*Equus caballus*



ほくは、  
**動物大使**

**その23 今年の干支です ウマ**

**ウマ**

*Equus caballus*

家畜として全世界に分布。初めは他の動物同様、肉や皮など人間の食料として狩られていたが、約5000年以上前に家畜として飼育慣らされ、物の運搬や農作業、そして戦争に使われてきた。さらに馬具が改良され乗り物として活用するなど、人間の生活に深く関わり、人間の文化の繁栄に大きく貢献してきた。しかし、自動車や農業機械の発達により活躍の場は次第に少なくなってきた。今では、乗馬や競走馬、レクリエーション施設や馬術、障害走、ポロなどのスポーツでしかあまり見られなくなった。

**旭山ZOOのポニー**



**ミク** オス '96年入園。黒毛がつややか。



**フジ** メス '98年入園。栗毛がやわらか。

**たてがみ**

長くてフサフサ。

**耳**

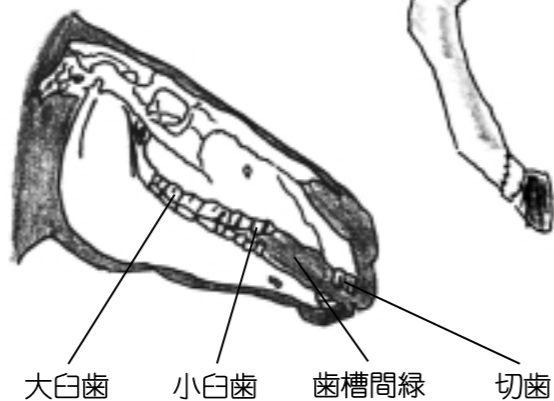
音の方向に動かせる。

**目**

広い範囲を見わたせる。

**歯**

切歯でかみ切り、  
小白歯でかみ砕き、  
大白歯ですりつぶす。



**ウマの進化**

ウマの祖先であるヒラコテリウムは、今から約5,400万年前の始新世に誕生しました。イヌほどの大きさで指は前肢に4本、後肢に3本あり葉食性でした。その後、四肢が長くなり体も大型化し、第3指が発達していきました。これは速く走って肉食獣から逃れたり、食料を求め長い距離を歩くための適応だと考えられ、ウマは強靱な脚力を身につけました。

そして、200万年前の更新世に最初の1本指のウマ、プリオヒップスからウマ属が生まれ、世界中に分布を広げ、現在のウマが登場しました。

(絵:古脊椎動物図鑑より)



ヒラコテリウム

**奇蹄目**

ひづめを持つ動物の中で指の数が1本、3本など奇数になっていて、第3指に体重がかかっているもの奇蹄目といい、現在はウマ科、サイ科、バク科の3科16種だけしか残っていません。家畜のウマ・ロバとサバンナシマウマ以外は、それぞれの種で生息数が減っていて、現在では奇蹄目全体が絶滅に向かっているといえます。

**体**

品種によって大きさはそれぞれだが、どれも筋肉のかたまり。  
体高1.42m以下をポニーという。

**子**

生後1時間ほどで自力で立ち上がる。

**足**

人でいう中指のつま先で立っている。

**たこ**

ふぜん「不蟬」といい馬の特徴の1つ。四肢の内側にある。日本では「夜目」ともよばれる。

**最後の野生馬 モウコノウマ**

1879年、中央アジアでロシアの探検家ニコライ・プシバルスキーによって発見されたウマで、発見者の名をとってプシバルスキーウマ(Przewalski's horse)ともいいます。家畜ウマの原種だとされているモウコノウマは、現存する最後の野生馬といわれています。北アメリカのムスタングやオーストラリアのブランビーというウマが野生状態で生息していますが、これは家畜化されていたウマが逃げ出し、野生化したものなので、真の野生馬とはいえません。現在、野生のモウコノウマは、1969年に確認されたのを最後に、その勇姿を見た人はいません。おそらく絶滅してしまったのではないかと恐れ、今では動物園などの飼育施設でしか見ることができなくなりました。しかし、世界中の飼育施設で着々と個体数が増やされ、現在1,000頭以上が飼育されています。今、これらの個体を野生に復帰させる「再導入計画」がフランス・オランダを中心に進められ、ついにモウコノウマが再びモンゴルの広大な大地を駆けまわることができるようになりました。

(写真:朝日新聞社/新どうぶつ記より)



モウコノウマ



**ウマ科** 指は前・後肢とも1本  
ノロバ・シマウマなど7種



**サイ科** 指は前後肢とも3本  
アフリカに2種  
アジアに3種



**バク科** 前肢指4本、後肢指3本  
南・中央アメリカに3種  
東南アジアに1種

(写真:成美堂出版/世界の動物より)

**走る芸術品  
サラブレッド**

サラブレッドとは、馬の品種名の1つでイギリス原産の競走馬のことを言います。より早い馬を作ろうと選抜交配を重ね誕生した走る芸術品です。ところで、現在世界中のサラブレッドの雄直系先祖はたった3頭に行き着くこと、知っていましたか？つまり先祖をたどっていくと次の3頭、ダーレイ・アラビアン、バイアリー・ターク、ゴドルフィン・アラビアンという雄ウマにたどり着くのです。中でもダーレイ・アラビアンの子孫が最も多く、サラブレッド全体の95%がこのウマの血を受け継いでいるそうです。

# ヒーリングアニマル

最近「癒し=ヒーリング」という言葉をよく耳にします。  
 美しい風景を見る、きれいな音楽を聴く、さわやかな香りを楽しむ。近頃は癒し系アイドルなんて人たちもいるくらい、世はまさに癒しブームです。そしてこの「癒し」は動物たちに触れたり、世話をしたり、ただ一緒にいるだけでも感じることができ、身体的・精神的機能の回復や、生きることに對する意欲の向上などに効果があるといわれています。動物の世話をすることで閉ざされた心を開くこどもや、無表情だった老人が猫を抱くことで笑顔を取り戻した、という話を聞いたことがあります。まさに動物は「人の心を治すお医者さん」ですね。

旭山動物園には直接動物たちとふれあえる「こども牧場」があります。そこで今回はこども牧場の癒し系アニマルたちを紹介します。



## 大型系 ポニー



ミクロ フジコ

## まったり系 ぶた



ブーちゃん、なんと「お手」ができる

## 家族系 ヤギ



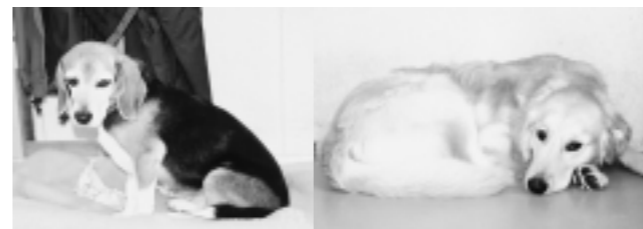
全部で9頭



## つかつか系 ヒツジ



## 元祖癒し系 イヌ



ビーグルの「ビー」 ゴールデンレトリバーの「チャンディー」

## 愛らし系 フェレット



## おとなし系 モリスモット



直毛 巻毛 チンチラ

## 目ざまし系 ニワトリ



ロック ウコッケイ



ポーリッシュ

ナゴヤコーチン

## フワフワ系 ウサギ



ライオン ロップイヤー ネザーランド

## さえずり系 インコ



セキセイインコ



ルリコシボタンインコ

## 純白系 アヒル



みんなカワイイでしょ！さあ、みなさんもここに来て動物たちとふれあってみませんか？人は傷つきながら生きていくもの。動物たちはあなたのささくれ立った心に「カンナ」をかけたくれますよ、きっと！！

# 飼育研究レポート

## チンパンジー日記 ミコとミラクル 第1章

旭山動物園では現在6頭のチンパンジーを飼育しています。今回はその中の1頭、ミコ27才（推定）が主役です。物語は6年前にさかのぼります。

1996年7月24日。熊本の施設からメスのチンパンジー「ミコ」が入園しました。この頃、私はまだチンパンジーの担当ではなかったのですが、当時の担当者のお話では、とにかく気が荒く、とても扱いづらい（ミコちゃんゴメンネ）チンパンジーだったそうです。それもそのはず、ミコは熊本にいく前は野生にいたチンパンジーだったので「野生のプライド」なのでしょう。なかなか人間に心を開いてくれなかったようです。しかし、仲間たちとはすぐにうち解け、リーダーのキーボにも気に入られ、ミコの新たな生活が始まりました。そして翌1997年4月4日、キーボとミコの間で初めての赤ちゃんが生まれました。しかしこの時ミコはひどい風邪をひいており、とても子育てが出来る状態ではなく赤ちゃんにも元気がありません。そして翌日、赤ちゃんは残念ながら死んでしまいました。

翌年から私が担当になり彼らとのつきあいが始まりました。初めて入るチンパンジー舎は重い空気がただよい、殺気さえ感じるほどの緊張感がありました。前任者から「これがキーボでこっちがチロで……」と教えられましたがどれを見ても私にはただの「黒いかたまり」にしか見えません。チンパンジーは群れの中で順位をつける動物です。初めが肝心。彼らになめられないように気合いを入れて「まずはリーダーのキーボから」とあいさつ回りをしましたが、「誰だ？お前は」といった目でにらまれ、オリをバンバンたたいて大さわぎ。つばをかけられたり、うんちを投げつけられたりなど熱烈な歓迎？いや洗礼を受け、私の気合いはあつという間にしぼんでいきました。そして問題のミコはというと手渡した餌を取るふりをして私の手を引っかき、痛がる私を見て喜んでるありさまです。「何なんだこいつら！ほんとめんこく（かわいく）ないな！」はつきり言って本音でした。

数カ月が経ち、下っ端ながらも、どうにか私も群れに入れた、いえ、入れていただいた頃、この年の5月11日、ミコに2頭目の赤ちゃんが生まれました。今回は、ミコも元気です。赤ちゃんも力強く泣いています。しかし、ゆっくりと近づいていった私の目の前には信じられない光景が……。 つづく



**キーボ**  
オス 33才  
群れのリーダー



**フロ**  
メス 22才  
おとなしい



**フリト**  
メス 21才  
ドイツ生まれ



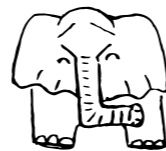
**ミコ**  
メス 26才  
今回の主役



**イブ**  
メス 11才  
フルトの娘



**ミンバ**  
オス 6才  
キーボとフルトの仔



# 動物園事情



## 動物園は平和の象徴

先日、アフガニスタンの動物園にいる盲目の老ライオンのことが新聞に掲載されていた。新聞によれば、内戦が激しくなった頃、動物園にいた希少動物は外国の動物園へ引き取られ、老ライオンが盲目となった原因は爆弾の破片がライオンに当たったため。そして、他のライオンは死亡してしまい、今は老ライオン一頭だけで暮らしている。

思い起こせば、我が国でも先の大戦末期に、動物園は閉鎖され、ゾウが殺された話が「かわいそうなゾウ」という本となって残されている。もちろん、ゾウばかりでなく、空襲によって施設が破壊され逃げ出したとき、人が襲われる可能性があるということで多くの動物たちが処分されていった。私がホッキョクグマの登録を担当することになり、過去の記録を調べて分かったことだが、昭和18年から19年にかけて3カ所の動物園でホッキョクグマ7頭が殺されていた。痛ましいのは、その方法で「銃殺」と「薬殺」の他に「餓死」や「絞殺」という記載もあった。重く苦しい時代があったことを改めて考えさせられた。

そして、終戦を迎え日本が立ち直っていくとき、復興に合わせるように、各地で動物園が作られ、多くの動物たちが敗戦で打ち拉がれた日本人の心を救った。

人類の歴史上、常に悲劇を巻き散らしている戦争は、人間社会だけのめめ事、動物たちには何の関わりもない。しかしながら、戦場となる場所には、都市ばかりでなく野生動物が生息する地域も容赦なく含まれてしまう。

毎日まいにち、ニュースは人間の被害だけを並べ立てている。そして、半径〇kmの生物を殲滅してしまうほどの威力を持った新型爆弾が使用されたとも報じていた。その地域には人間だけが隠れているのではない。上空からは何も見えないだろうが、アフガニスタンの山岳地帯には絶滅が心配されているユキヒョウやペルシャヒョウが生息しているのだ。そのことを誰も心配してはいない。心配どころか、気にかけてすらいらないような気がする。

世界中の動物園が協力して希少動物を絶滅から救おうと懸命な努力をしている。一方で、彼らの生息地が人間によって破壊され、彼らは今にも絶滅の渦巻きに飲み込まれようとしている。野生動物を守るには、まず平和な社会を築くことが絶対条件なのだ。



ユキヒョウ



## こども牧場だより -シロヤギさんのメール-



2002年になりました。今年ほうま年。ということで今回はポニーを紹介したいと思います。

こども牧場にはポニーが2頭います。ヤギやウサギがいるところよりも少し坂を下ったところに2頭はいます。この2頭は夫婦で、オスがミクロ、メスがフジコといいます。見分け方は、毛の色が黒と白で体型がややぼつちりしているのがミクロ、毛の色が茶と白で体が細いのがフジコです。ミクロはエサが欲しいときなどには「早くチョーダイ」と言わんばかりに前足で地面を掻きます。フジコは欲しくても黙って待っています。エサをあげるとまずミクロがほとんど食べてしまうので（この間もフジコは黙って待っています）、エサを2カ所に分けて与えています。ちなみに2頭の大好物はニンジン。草を先にあげても、ニンジンをもらうのを待っています。ミクロははっきりとした年齢は分かりませんが、1996年から動物園で暮らしています。フジコは1991年生まれで、98年にミクロのお嫁さんとして動物園にやってきました。

2頭はとてもおとなしいので、さわってもかんだりはしません。ご機嫌なときには自分から「さわって〜」と寄ってくることもあります。ただ、口元に手を持っていくとエサと勘違いしてかむことがあるかもしれませんので、気をつけてくださいね。

さて、今年の主役はポニーで決まりだとは思っていますが、今回はミニブタも紹介しちゃいます。こども牧場には黒いブタが一頭います。いつも「黒ブタだ！」といわれてしまうのですが、このブタは「ミニブタ」でポットベリーという品種です。1991年生まれのメスで、97年にこども牧場にやってきました。私たちは「ブーコ」や「ブーちゃん」と呼んでいます。昨年、来園したときからずっと一緒に暮らしてきたダンナ様を亡くして、現在はひとり暮らしです。ブーコは夏は外でお昼寝をしている姿を見ることができのですが、冬は寒いのが嫌いなので、部屋の掃除をするのに外に出しても、すぐに部屋に帰ってこようとします。鼻を器用に使って、自分で扉を開けて帰ってくるんですよ。外に出したはずなのに、気がついたら「あれっ？なんでいるの〜？」なんてこともしばしば。ブーコは人になでなでされるのが大好き。ちょっとぼつちりでもとってもかわいいブーコをぜひさわりにきてください！



ミクロ



フジコ



ブーコ

# 主なできごと

- 9月25日 飼育勉強会  
「ヒメギフチョウについて」(坂野)
- 9月27日 ホッキョクグマ ハッピー  
右上顎膿瘍の排膿手術
- 10月11日・12日  
日動水協北海道ブロック  
秋季飼育技術者研究会  
「エゾリスの継代飼育について」  
(坂野)
- 10月21日 夏期開園終了
- 11月3日 冬期開園開始
- 11月20日 カバ、ラクダ  
跛行治療のグルコサミン投薬開始
- 11月26～28日  
第49回全国動物園技術者研究会  
「ペンギン3種の  
血清中尿酸値について」(坂東)  
「北海道産動物舎における  
展示方法の工夫」(木樽)  
「新オランウータン舎について」  
発表(高橋)
- 12月13日 トナカイの贈与を受ける
- 12月26日 オジロワシ保護収容
- 12月27日 オオワシ保護収容  
飼育勉強会  
「動物の愛護及び管理に関する  
法律及び条例について」(坂東)
- 1月11日 オジロワシ保護収容 鉛中毒
- 1月16日 オオワシ保護収容
- 1月20日 飼育勉強会  
「動物園獣医学を「展示する」  
あるいは「伝える」ことの試み」  
(福井)

# クイズ

ウマとキリンとサイの指は合わせて  
何本でしょう？前足・後ろ足全部だよ!!

1. 18本
2. 20本
3. 24本



キリン



「キミたち何本？」



ウマ

61号の正解は2番でした

61号の当選者

旭川市 村田 類 さん

正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製エゾシカの角キーホルダーが当たります。

応募方法はハガキに答と住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、旭山動物園モユク・カムイ係までお送り下さい。

応募め切 2002年4月15日

## 飼育動物数

(平成14年1月末現在)

ほ乳類	49種	213点
鳥類	92種	523点
爬虫類	11種	36点
合計	152種	772点

## 編集後記

今年度の冬は年末までの大雪とは違って変わり、今年に入ってまとまった雪が降りません。2月上旬でもう雪解けの気配です。入園料を頂いての初めての冬期開園。みなさんからどんな評価をされているのでしょうか？

ほっきょくぐま館建築のため、アザラシは旧ホッキョクグマ舎での仮住まい。ちょっとすみにくいけど、新居ができるまでの辛抱です。動物園どうせ行くなら旭山。行ってビックリ旭山。来年もまた旭山。今年もよろしくお願ひします。



ほっかほが

## モユク・カムイ No.62 平成14年2月28日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104  
 発行 小菅正夫 <http://www.arc-net.co.jp/shoukou/sc02.html>  
 編集委員 中田真一・坂東元  
 印刷 谷川印刷株式会社 〒070-0831 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653